



# 林業の現場におけるヤマビル対策



「山で作業後、気がつけば服が**血で真っ赤**に。

慌てて脱いでみると、**ヒル**がついていた！」

鹿児島県内では、以前からヤマビル\*の多い場所もありましたが、

近年は**これまであまり被害のなかった地域でも、**

**ヤマビルを見かけるよう**になりました。

そこで、各機関から発信されている情報をもとに、生態や対策をまとめてみました。

※鹿児島県内でみられるのは、「ニホンヤマビル」



## 気づかれずに吸血

ヤマビルは、歯で皮膚に傷をつけ、痛みを感じさせない物質と血液が固まるのを防ぐ物質を出して吸血。そのため、吸血されていることに気づきにくく、血も止まりにくいのです。

## ヤマビルの生態・特徴

### 好む場所は？

- ・陽の当たらない、湿った場所を好む。
- ・遊歩道や獣道など、人や動物が通る場所にも。

### 餌は？

- ・餌は動物や人などの血液のみ。
- ・満腹になるまで吸血すると自然に落下。

### どうやって寄ってくる？

- ・熱や炭酸ガス、振動、におい等を敏感に感知。
- ・尺取り虫のような動きで、素早く(1m/分!)寄ってくる。

### 繁殖は？

- ・落ち葉や石の隙間に、5~10個の卵が含まれる卵のうを1~8個つくる。約1か月でふ化。1年かけて成体に。

### 遠くへの移動は？

- ・シカなどの足に穴をあけて入り込み、半寄生状態で吸血。そのため、脱落せずに遠くまで運ばれることが可能。

### 活発なのはいつ？

- ・4~11月に活動。湿った蒸し暑いときに地表に多く出現。
- ・冬は土中、石の下で越冬。2~3年生きる。

### なぜ生息域拡大？

- ・運搬役である野生動物、特にニホンジカの生息数増加、生息域拡大に伴って増加・拡大したと考えられている。

参考文献は次ページに記載

### 最近の研究から

ヤマビルに残る血液のDNAを調べることで、シカが重要な寄主動物であり、また、シカがいない地域ではカエル類を主に吸血していることが明らかに。シカの増加に伴って、寄主対象をカエルからシカに変えることによって栄養価の高い血液を得ることができ、その結果ヤマビルは増加、分布を拡大したと考えられる。

(Morishima *et al.*(2020) Ecology and Evolution 10)

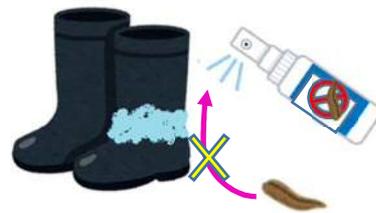
# ヤマビル対策

## 吸血されないために

- ・ **吸血されにくい服装**で。肌の露出を少なく、服装の隙間をなくす。

- ✓ズボンの裾に、靴下を被せてはく。靴下は厚手の物を。
- ✓上着の裾は、ズボンの中にしまう。
- ✓首回りや袖口の間にも注意！

(体に密着した素材のシャツは、首回りや袖口に隙間ができず効果的。)



- ・靴や首回りに**忌避剤の使用**。
- ・休憩時など、腰を下ろす際は注意。地面に置いた帽子や鞆なども、付着していないか確認。

### 主な忌避剤

#### ヒル専用忌避剤

インターネットなどで購入可

- ・ヤマビルファイター (イカリ消毒)
- ・ヒルノック (レインボー薬品)
- ・ヒル下がりのジョニー (エコ・トレード)

#### ディート入り虫よけスプレーも効果有り

ディートは一般的な虫よけ剤の成分。薬局等で購入可。

- ・サラテクト (アース製薬)
- ・虫よけキンチョールパウダーイン (キンチョー)
- ・スキンベープミスト (フマキラー)

## 吸血されてしまったら

- ・ヤマビルを取り除く  
(吸血中に剥ぎ取っても問題ない)
- ・ **とったヤマビルを駆除する→繁殖させない!**  
食塩や塩水 (濃度 20%) をかける。  
忌避剤や虫よけスプレー (ディート) をかける。  
タバコやライターの火であぶる  
ハサミなどで切断する, など。  
(踏みつぶすだけでは, 駆除は困難)。
- ・傷口をつまんで洗う (ヤマビルの成分を絞り出す)
- ・かゆみがあれば抗ヒスタミン剤等を塗り, 絆創膏を貼って流血を抑える。

### 殺ヒル剤で広範囲に駆除できる?

- ・市販されている殺ヒル剤は, 草を刈り払い, 落ち葉を除去した上で, 散布前に人が通るなどしてヤマビルを誘い出してから, ヤマビルに直接かかるよう散布します。
- ・キャンプ場や登山道などでは有効な方法ですが, 草が生い茂る中に入っていく **林業の現場では, 殺ヒル剤を散布しても, ヤマビルに薬剤を付着させられず, 密度低下は期待できない**と考えられます。

## ヤマビルを増やさないために

- ・ **餌資源, 運搬役であるシカなど野生動物の管理が重要**  
狩猟による野生動物の密度管理  
防護柵などによる野生動物の生息域拡大防止



以下の資料を参考にしました。

「ヤマビル対策マニュアル」 栃木県環境森林部森林整備課 2022年4月発行

「ヤマビル研究会 HP <http://www.tele.co.jp/ui/leech/index.html>」 2022年9月閲覧

「千葉県ヤマビル対策マニュアル」 千葉県環境生活部自然保護課 2021年3月発行

「森林科学 (DNA解析によるニホンヤマビルの寄主動物の識別と分布拡大範囲の推定)」 森嶋 (2021年発行)